



下北教育事務所
QRコード

社会教育だより
「かけ橋」はバックナンバーも含めて下北教育事務所のホームページでご覧になれます。

放課後児童対策に係る支援員等研修会(前期)

～6月3日(水) むつマエダアリーナ～

放課後のこどもたちに、豊かな時間と安全・安心な居場所を提供する「放課後子ども教室」や「なかよし会」、「児童館」などの職員や関係者を対象とした研修会を開催しました。当日は、下北管内に加え、横浜町からの参加者もありました。

演題：「子どもをまもるために大人ができること
～いまより悪化させないこと～」

講師：日本赤十字社 青森県支部 事業推進課

専門員 山野内 博 見 氏

最初に、こどもに起こりやすい事故についての講義があり、誤嚥や窒息しやすい食べ物の形状や性質、また、未然防止のためにこどもに伝えておくことと、大人が気を付けることについて丁寧に説明されました。

心肺蘇生やAEDの演習では、相手に目を合わせて意識レベルを確認したり、周囲の人を個別に指名して具体的な協力を依頼したり、ダミー人形を使って声を出して交代しながら心臓マッサージを行ったりしました。

最後に、けがの対処法として、効果的な絆創膏の使用法や、ある程度歩けるように三角巾で足首を固定する方法などについて全員が個別に体験することができました。



【参加者の声】

- ・こどもの命を預かる現場なので、何度受けても良い内容だと思います。
- ・いつ、どこで、誰が、と思うと、常に自分ができるように訓練できればと思います。
- ・こどもの命に関わることなので、アップデートしていきたいです。

スポーツ推進委員・スポーツ指導者等

むつ下北地区研修会

～6月27日(土) むつ市中央公民館～

各市町村のスポーツ推進委員や地域のスポーツクラブの指導者を対象として、コンディショニングについての研修会を開催しました。

講義演題：「疲労回復のためのコンディショニング」

実技演題：「テニスボールを活用した筋膜リリース」

講師：青森県スポーツ科学センター

スポーツ科学専門員 廣 本 瞭 氏

前半の講義では、スポーツ科学やコンディショニングの概念について学びました。

ジョイント・バイ・ジョイント理論に基づくけがの原因、アクティブ(積極的)とパッシブ(消極的)という2種類の身体の休め方、コンディショニングに有効な食材や調整など、身体のケアについて説明いただきました。

後半は、筋膜リリースの実技を行いました。

筋膜リリースには専用の器具もありますが、今回は、テニスボールを使用した手軽な方法について教えていただきました。

体の様々な場所に応じたボールの当て方や適した個数、力の加減や体重のかけ方、体勢などについて、実際に体験しながら学ぶことができました。



【参加者の声】

- ・疲労回復の視点での研修会で、とても興味深かったです。
- ・スポーツ科学の概要を初めて聞いて、大変参考になりました。
- ・実技は、すぐに活用できる内容で有効でした。

小学生の夢を応援！

ユメココ教室 今年度は「特別版」も実施

青森県教育支援プラットフォーム下北地区実行委員会による小学生の夢を応援する「ユメココ教室」が、今年度は下北管内の8校で開催されることとなりました。

「ユメココ教室」は、小学生対象のキャリア教育で、地域の方を講師にお迎えし、仕事に関する話を聞いたり、仕事を体験させてもらったりして、小学生が将来の仕事について考える貴重な機会となっています。



「科学者と話そう」～ユメココ教室 特別版～

～8月8日(土) 下北文化会館～

今年度初の試みとして、小学生だけでなく、中・高校生も対象にした「ユメココ教室特別版」を開催しました。講師も特別で、かつて発明王エジソンや電話機を発明したベルも所属したIEEE(アイ・トリプル・イー 米国電気電子学会)に所属する大学教授や大学院生、企業の研究員を全国からむつ市にお迎えしました。

午前中の小学生は、前・後半で2つのブースを選んで参加しました。科学の楽しさや各講師の研究内容を分かりやすく説明してもらい、これまで疑問に思っていたことを質問して、教えてもらったりしました。

午後の中・高校生は、午前中より少し専門性の高い話を聞きました。各講師の研究内容や方法、今後の展望などのほか、自分の進路を見据えて大学や大学院の生活について、熱心に質問する高校生もいました。



【参加者の声】

- ・鉛筆の芯とダイヤモンドの炭素が同じでびっくりしました。(小)
- ・好きなことを続けていると、自分の将来に役立ったりするんだなと思いました。(中)
- ・大人になってから必要な心持ちや考え方、実験・研究のやり方を知って、いずれ研究者になった時の想像がふくらみました。(高)
- ・企業の研究者の方や大学の方に直接お話を聞ける機会がないので、とても良かったです。(保)